

交差する価値を求めて一 個の葛藤、世界の構築

JAPAN

AMERICA

Fortify: Constructive Exchange to Undertake Challenges

NEW YORK WASHINGTON D.C. SAN FRANCISCO

第74回日米学生会議

2022 8/4 - 8/26

主催：一般財団法人 国際教育振興会

企画・運営：第74回日米学生会議 学生実行委員会

後援：外務省・文部科学省・米国大使館・一般社団法人 日米協会

賛助（予定）：三菱UFJ国際財団、双日国際交流財団、尚友倶楽部、他



目次

- 03 日米学生会議の理念
- 04 実行委員長よりご挨拶
- 05 第74回日米学生会議
実行委員会
- 06 日米学生会議の活動
- 07 第74回開催地紹介
- 08 分科会紹介
- 10 参加者の声
- 11 その他情報
- 12 募集要項



日米学生会議の理念

日米学生会議は、1934年、4人の日本人学生が満州事変以降悪化していた日米関係を憂慮し、太平洋を渡り日本での会議開催を訴え実現した日本初の国際的な学生交流プログラムです。創設時より学生自身の手による会議の企画、運営が行われ続け、太平洋戦争勃発に伴う会議中断をはじめとする幾多の困難を乗り越えながら、現在まで88年間の歴史を築いてきました。「世界の平和は太平洋の平和にあり、太平洋の平和は日米間の平和にある。その一翼を学生も担うべきである。」という理念の下、日米の学生たちは、約3週間に亘り様々な問題に対し議論を重ねながら、相互理解を深めます。

宮澤喜一 氏

第78代内閣総理大臣・1939、1940年参加者



As one whose own first involvement in Japan-US relations was under the auspices of the Japan-America Student Conference in 1939, I can tell you honestly that it was one of my formative events of my lifetime. Having stood in your shoes more than fifty years ago, I sincerely hope that you will take full advantage of your participation in JASC.

ヘンリー・A・キッシンジャー 氏

元アメリカ合衆国国務長官・1951年参加者



I had had little opportunity, in the post-war period, to meet and exchange views informally with Japanese people. The Japan-America Student Conference provided that opportunity, and from it came many valuable new perspectives on Japanese culture and society. It was also at that time that my interest was awakened in Japanese artistic and aesthetic traditions, and appreciation which remains with me to this day.

日本側実行委員長挨拶



山崎聡子
日本側実行委員長
慶應義塾大学法学部2年

近い将来、我々はコロナ禍に翻弄され続けた学生世代と形容されるのであろうか。日米学生会議はいかなる状況下でも、長きに亘る学生間の繋がりを紡ぐことに成功を収めてきた。それだけの基盤が当会議にはある。本当に翻弄された世代となるかどうかは、我々次第ではなかろうか。「交差する価値を求めて— 一個の葛藤、世界の構築」のテーマのもと、第74回日米学生会議はウィズ・コロナとポスト・コロナの転換点において開催される。こうした時代の学生間の交流となるからこそ、人々が結びつく重要性を一層強く実感し、成長できる場となるであろう。自ら主体的に考え柔軟に対応する力が求められる現在、既存の枠組みや従来の世界観の再構築を目指す当会議は、参加学生、日米両国、ひいては世界にとって意義深い会議となることを確信している。

議論とは一方向を向くことではない。悩みも葛藤もあるだろう。それを深い思考に変えていければ、会議を創る身としてこれ以上の喜びはない。交差する価値を求めて、第74回日米学生会議の門戸はどこまでも開かれている。

米国側実行委員長挨拶

After persevering through the coronavirus pandemic and an ever-changing political climate, JASC continues to be an immensely important experience for the students of America and Japan. We must not forget the ties that both nations have worked hard to build and upkeep over many decades. This year's theme, "Fortify: Constructive Exchange to Undertake Challenges", was made with the intent to ensure that the bonds between Japan and America not only remain, but are also further strengthened by our collective efforts. Our executive committee agrees that these bonds are not only important on the international scale, but even on the interpersonal level.

As the American Executive Committee Chairman, I've been given the great opportunity to make sure that the future delegates of JASC 74 are given an experience that builds upon their character and relationship with their international companions. Hearing the various topics that the other committee members are eager to discuss with the future delegates, I can tell that JASC 74 will truly be an experience where students will leave feeling that they have greatly improved as an individual and global citizen.



Dylan Cain
米国側実行委員長
Duke University
Visual Arts and Japanese

第74回日米学生会議実行委員会



実行委員長・財務

山崎聡子

慶應義塾大学
法学部2年



副実行委員長・選考

石井颯太

早稲田大学
政治経済学部2年



選考

金城萌音

慶應義塾大学
法学部2年



選考

山上修吾

一橋大学
法学部4年



広報

辻美波

東京大学
教養学部2年



広報

アリスメンディ
ミカエル

上智大学
国際教養学部3年



財務

大森陽平

関西学院大学
国際学部4年

日米学生会議の活動

春合宿
4/29～5/1

防衛大学校
研修
6/2～6/3

自主研修,
勉強会

本会議
8/4～8/26

分科会
毎週1回

春合宿

参加者は、4月からオンラインミーティングを行い、5月の2泊3日の春合宿にて初めて顔を合わせる。当合宿では、日米学生会議の歴史を学ぶとともに、夏の本会議に向けて英語による議論やフィールドトリップを行うことで日米学生会議の基礎を学ぶ。

防衛大学校研修

日本の将来の平和と安全を担う自衛官の幹部候補生養成を目的とする、防衛大学校を訪問する。日米関係を考える際に極めて重要となる「安全保障」についてより詳しく学ぶため、防衛大学校教授による特別講義の受講や、同校の学生と対話の機会を持つ。

自主研修/ 勉強会

夏の本会議に向けて必要となる英語力の向上や、社会問題への理解を深めることを目的に、自主研修や勉強会を開く。第73回はオンラインで福島のパログラムを行い、復興やWELL BEINGなどのテーマについて考察を深めた。第74回は沖縄返還協発効50周年にちなみ、沖縄での開催を予定している。

本会議

本会議では、日米71名の学生が約3週間に亘って共同生活を送りながら米国の都市を巡り、見識を深めつつ各々の議論を進めていく。分科会における議論、米国でのフィールドトリップ、文化体験並びに講演会や現地学生との討論、各サイトでのフォーラムを通じて、日米学生会議における学びの集大成とする。

開催地/テーマ



NEW YORK "Cultivate"

カルチャー、ビジネス、テクノロジー、国際機関、どこを切り取っても世界の最先端を体感できる都市、ニューヨーク。その姿は多様な人種や民族による文化の融合した社会として名高い。こうした多様性を前に、当開催地では、「CULTIVATE（開拓）」を主題にプログラムが構成される。様々な企業や機関の本部を訪れ業界の代表者との交流を図ると同時に、現地の学生との議論などからローカルな視野も養う。日々新たな生活文化を形成するこの都市にて、74回会議の出発点を刺激的で可能性に溢れたものにする。



WASHINGTON D.C. "Decision Making"

アメリカの首都であるワシントンD.C.は、政府機関・歴史的な文化の中心地である。ホワイトハウスはもちろん、ワシントン記念塔、議会図書館など、アメリカを代表する施設が数多く並ぶ。また、重要な歴史転換点における未来を見据えた意思決定が絶えず行われてきた。当開催地では、この「DECISION MAKING（意思決定）」を主題にプログラムが構成される。国際的な卓越性と多国間の調和を目指す日米両国の継続的な努力を象徴するこの街で、米国の意思決定プロセスや、民間人として、学生としていかに国際社会に貢献できるかを学び、議論する。



SAN FRANCISCO "Dare"

サンフランシスコは、戦後日本の主権回復条約が結ばれた歴史的価値、ゴールデン・ゲート・ブリッジなどの豊富な観光資源、ヒッピーやゲームブメントなどのカウンターカルチャー、世界のビジネスやIT企業の最先端を走るシリコンバレーを内包した都市である。ニューヨーク、ワシントンD.C.を経て、当開催地では「DARE(挑戦)」を主題にプログラムが構成される。アメリカの文化の変遷、ビジネスや技術の最先端をこの地で体感し、本会議後も自らも挑戦し続ける姿勢を養うことを目標とする。

ニューヨークでの多様性の開拓、ワシントンでの意思決定の確立、サンフランシスコでの挑戦する姿勢の獲得。これらの体験を通して最終的に、全体テーマである、既存の自己認識や世界観の再構築、交差する価値の発見を目指す。

分科会紹介



未来予測

データとモデルから見る個人と社会

当分科会では参加者が理論的・実証的に行った未来予測を持ち寄り、分析手法も含めて議論する。ナイル川の氾濫時期を予測するために天文学が発展したことが有名であるように、未来予測は人々の生活を改善するために古来人類が活用してきた技術である。現代において国際社会の勢力図を予測することは将来的に国民の便益を最大化する政策づくりに繋がる。同様に、技術革新の起こる産業を予測することは社会の発展に最も貢献する投資に繋がる。以上のように、当分科会は近年主流になりつつあるエビデンスに基づいた戦略策定に関して日米の若い知恵を結集して議論する。ここでの活動は参加者に未来のリーダーとしての素養を提供すると「予測」する。

技術革新と遺産

グローバル・コモンズと21世紀の技術発展のあり方

当分科会では最先端の技術革新と、それに伴い生じる地球規模の課題を解決する方法を模索する。グローバルコモンズとは地球規模で人類が共有している資産であり、日本語では国際公共財などと訳す。AI、原子力、モビリティなど近年の技術発展はめざましいものであり、私たちの生活様式や国際関係に絶大な影響を及ぼしている。また、技術革新は、領海、大気、極地、宇宙、サイバー空間などのグローバルコモンズにも大きな影響を及ぼしていく。進歩し続けるテクノロジーと我々が保護すべきグローバルコモンズの調整を見出すため、技術革新の歴史、公共財保護の歴史に着目し技術革新のあるべき姿を議論する。

グローバル・ガバナンスと国家主権

国際社会を国際機関と国内政治から理解する

なぜ中国は南シナ海の領有権にこだわるのか？アメリカがパリ協定から離脱した一方で、なぜ中国はよりアクティブな姿勢を見せているのか？なぜコロナ禍においても国際協調の動きは少ないのか？これらの問いは、従来のように「国家」の関係や動機を見るだけでは十分な理解を得ることはできない。変化する現状の中で、国際問題の解決について考えるのであれば、国家を単一のアクターとして捉えるのではなく、その行動は国際的規範と国内政治の両方に大きく影響されていると理解する必要がある。そこで、本分科会では、国際的な 이슈を国際機関と国内政治の両観点から分析し、国益とグローバルアジェンダがどこで合致するのか、あるいは乖離するのかを探ることを目的とする。上述の問いのみならず安全保障、気候変動、貿易など、日米に関連するさまざまな問題を上述の観点から議論してゆく。

ビジネスと社会変革

ウェルビーイング向上における企業の存在意義

企業は天使にでも悪魔にでもなり得る。人間社会や自然環境のWell-Beingの向上に貢献する企業も存在する。その一方で倫理に欠けた事業によって富を築く企業も存在する。しかし様々なステークホルダーから持続可能性への期待や圧力が高まる現代のビジネス環境では、社会貢献度が極めて重要になっている。そんな環境下でも、非倫理的な企業活動は利益追求において合理的なのか？それとも地球という共同体のWell-Beingの向上に寄与しつつ、利益追求を実行することが可能なのか？当分科会では様々な産業を議論の対象として、社会変革と利益追求の両立の実行可能性を模索する。さらに社会問題の観点からも、各産業がどのようなアプローチができるか、そしてどのようにしてソーシャルビジネスを創出できるかを探る。

タブー

アルコール、ドラッグ、セックス、その他“悪”へのメタ認知

アルコール、麻薬、セックス、賭博、刺青。世の中には、社会的に禁忌、すなわち「タブー」として認知されやすい事柄が数多く存在する。これらタブーは一般的に「悪」とされていながら、そこにある種の快感を見出す人もいる。また、どれほど「悪」とされているかもコミュニティごとで異なる。この違いは何なのか？タブーとされることは、実際に「悪」なのか？いつから「悪」と認知されているのか？当分科会では人間行動学、政治学、社会学、心理学、人類学、歴史学、犯罪学などの多様な学問領域を通して、タブーの歴史や文化における違い、政治的背景など考察する。現代社会の重要な一部であるにも関わらず日常生活で避けられているからこそ、タブーの本質の解明を試みる。Come and see what's behind the curtain.

教育とメディア

社会教育におけるメディアの価値と役割

メディアは教育にどのように関わっているのだろうか。テレビ、映画、音楽、雑誌、本、ソーシャルメディアなどを、私たちは毎日あたりまえのように利用する。これらは今や社会生活の重要な一部となった。また教育とは、学校内に限らず、家庭や地域などあらゆる場所で生涯にわたって続き、私たちの行動やアイデンティティに影響を与えるものだ。共同体の歴史への認識も、メディアによって簡単に変化してしまうかもしれない。当分科会では、子どもから大人までの各世代の学びを広く「教育」と捉え、あらゆるメディアが現代の教育に及ぼす影響、これからのメディアを通じた教育のあり方を探る。

社会正義と文化多様性

現代社会における平和構築

人はなぜ正義のために立ち上がるのだろうか。不条理な主義主張に抑圧されたひとりひとりの声はやがて集まり力を持ち、大きな社会運動の渦を創り出す。しかし人々の主張はSNS上において一時の「流行り」の話題として取り上げられることも多い。私たちは本当に彼らの声に耳を傾け、その思想を真に理解していると言えるのだろうか。本分科会では、先住民族の権利獲得、LGBTQ+コミュニティ、BLM運動など社会的ムーブメントをテーマに、個人の意思が紆余曲折を経て社会全体に反映されてゆくまでのプロセスを、運動を促した歴史的背景、それに伴って活発になった芸術活動、固有の宗教や慣習に着目しながら考察する。また日米双方の参加者は議論を通して、人々が自らの正義を主張しあう現代社会における平和構築の術を模索する。

参加者の声



Niko Olson
Virginia Tech
第73回会議参加者

I found JASC to be a very rewarding and eye-opening experience. JASC is a masterful synergy between education and fun. The conferences, round table discussions, and forums were very informative, and honed my skills in cooperation, public speaking, and debate. Exchanging ideas and perspectives with students from across both Japan and the United States was an impactful experience that changed the way I view the world. Some of my largest takeaways from JASC are the friends and memories I made along the way. JASC has a way of attracting some of the coolest and most fascinating characters out there. Being student run allowed JASC to have a very welcoming atmosphere between all its members, and I'll never forget the friends I made. Between events, we were given a lot of time and freedom to explore and have fun. I'll always cherish the late night 7-11 runs, beach trips, inside jokes, adventures across Honolulu, and collectively rushing back to the conference room in time for the next event.

I cannot recommend JASC enough.

「私がここにいる意味は何か。」日米学生会議の参加期間中にこの問いについて考えなかった日はない。様々な勉強会、白熱する議論、そして何気無い雑談さえも全てが私にとって学びの連続であった。受ける刺激が大きかったからこそ、私自身が全体に貢献しているという実感を得られず不安になることもあった。知識や英語力に欠ける私がそれでも最後まで熱意を持って参加できたのは周囲の参加者の存在によるところが大きい。できないところは補い合い、できるところは全幅の信頼を置く。皆が作り上げるそのような環境が私の問いに対する答えを示してくれた。参加者たちは「日米の学生」という名目上の立場はありつつも、蓋を開ければ異なる思考を持つ人間の集まりである。今夏の経験を通して得られた、互いが違っていてもそこに優劣はなく共生可能であるという視点、そして自分を含め誰もが誰かを肯定的する存在になりうるという気づきは、この先一生忘れることがないだろう。



岡本千奈
お茶の水女子大学 文教育学部
第73回会議参加者



その他情報

日本側参加者出身大学

青山学院大学
お茶の水女子大学
海上保安大学校
関西外国語大学
関西学院大学
学習院大学
九州大学
京都大学

京都外国語大学
慶應義塾大学
国際基督教大学
国際教養大学
首都大学東京
上智大学
筑波大学
東海大学

東京大学
東京医科歯科大学
中央大学
東京外国語大学
東京工業大学
一橋大学
防衛大学校
法政大学

北海道大学
武蔵野美術大学
明治大学
群馬大学
立命館大学
早稲田大学 他

過去の参加者

88年の歴史を通じ、5000人以上のOBOGが各方面で活躍しています。

アレン・マイナー(サンブリッチ・グループ CEO)
橋本徹(みずほフィナンシャルグループ名誉顧問)
八城政基(元新生銀行取締役会長)
茂木健一郎(脳科学者)
広中和歌子(前参議院議員)
天野順一(元三井物産副社長)
猪口邦子(参議院議員)
今井義典(元NHK副会長)
内古閑宏(ヴィネジョア社長)
小林薫(産業能率大学名誉教授)

降旗健人(伊藤忠商事元副社長)
竹村健一(評論家)
高橋和夫(放送大学誉教授)
船瀬俊介(環境問題評論家)
槇原稔(三菱商事元社長・会長)
三浦俊章(朝日新聞編集委員)
八木健(ベイビュー・アセット・マネジメント
代表取締役)
井伊雅子(一橋大学大学院国際・公共政策大学
院教授)
など

日米学生会議同窓会ネットワーク

日米学生会議には
“Once a JASCer. Always JASCer”
という言葉があり、過去の参加者同士の
交流が継続的に行われています。会議参
加者は右のようなイベント等様々な行事
を通して、世代を超えて広がり続けるア
ラムナイネットワークに加わることがで
きます。

ようこそ先輩

例年、春合宿に最初の企画として過去の参
加者(=アラムナイ)と出会う、「ようこそ
先輩」が開催されています。年の近いアラム
ナイからすでに社会で大活躍されている世代
まで、非常に刺激的な交流となります。

Salon de JASC

同窓会会員によって定期開催され、互い
に交流する機会を持ちます。

第74回日米学生会議 募集要項

会議概要

公式プログラム:

- a. 春合宿 [2022年4月29日(金)～5月1日(日)]
- b. 防衛大学校研修 [2022年6月2日(木)～6月3日(金)]
- c. 直前合宿 [2022年8月3日(水)～8月4日(木)]
- d. 本会議 [2022年8月4日(木)～8月26日(金)]

参加人数: 日本側学生28名

参加費 : 30万円

(上記公式プログラム中の移動費、宿泊費、食費等を含む。国内集合場所までの交通費も一部含む。)

選考概要

一次選考: 2021年12月20日～2022年2月4日

書類選考 (参加申込書、小論文課題)

二次選考: 2022年3月1日～3月5日 (90分程度、オンライン)

個人面接 (一部英語を含む)、集団討議、教養試験 (選択問題)

合格発表: 2022年3月中旬

応募資格

以下1.～3.を全て満たすこと

1. 2022年4月時点で原則として日本国内の大学、大学院、短期大学、専門学校等に在学する学生であること
2. 上記公式プログラムに参加可能であること
3. 参加者発表後本会議までの期間、分科会毎に平均週一回行われるオンライン会議に参加できること

※新型コロナウイルス感染症に関する情報は、必ずホームページを参照すること

【日米学生会議事務局】

〒160-0004

東京都新宿区四谷 2-2-2 深津ビル 401

一般財団法人国際教育振興会分室

☎03-3359-0563

jasc74.recruit@gmail.com (選考担当)

jasc.kouhou@gmail.com (広報担当)

【一般財団法人国際教育振興会】

〒160-0004

東京都新宿区四谷 1-6-2 コモレ四谷

グローバルスタディスクエア3階

☎03-3359-9621 info@nichibei.ac.jp

*国際教育振興会は日米会話学院、日本語研修所の運営の他、外国人による日本語弁論大会、米国大学日本語研修プログラム等を実施しています。

公式ウェブサイト
jasciec.jp

